

温々 ギャラリー案内 2019年7月～12月〈下半期〉

TEL/FAX 048-686-3620

〒337-0001 埼玉県さいたま市見沼区丸ヶ崎1856

<http://cafe-nukunuku.com>

6月25日(火)～7月7日(日) 高内陽彩展	絵皿・マグカップ・花入れなど 日常使いの器を並べます。 お気に入りを見つけて頂けたら幸いです。
7月9日(火)～7月21日(日) オオタ硝子研究室 「雨とピアノと」	キルンワーク技法を使ってうつわやオブジェを製作しています。 光によって様々な表情を魅せるガラスの質感を大切に 今回は花入れやオブジェ、うつわを展示いたします。〈野澤美奈子プロデュース〉
7月23日(火)～8月4日(日) 仕草 「TENUGUI 10」	私ごとですが、独立してちょうど10年になります。 のらりくらりとですが てぬぐい、型染め、天然染料と自分なりに向き合ってきました。 10年前より楽しく充実して染色ができてきていること、より感覚的な気持ちの 良さを求めるようになり変化してきたデザイン。 重ねてきたものを少しでも見て頂けたらと思います。
8月5日(月)～8月8日(木)	夏季休業
8月9日(金)～8月25日(日) 森下彰太 陶展	着工から5年!?! この5月に工房が一部屋完成。 工房=自分を入れる器。 ガレージをイメージして使いやすく居心地もいように作った仕事場。 ヤキモノも料理の居心地を感じながら創る事を大事にしたいです。 工房の骨組みだけはあと6部屋分出来ています。 いったいあと何年かかるのだろう…
8月27日(火)～9月8日(日) 時をこえてなお美しい織物 「OVER and OVER」	何千年もの昔から何世代にもわたって継承され、時代や地域をこえ 人々の生活とともに生き続けるさまざまな織物。 アンティークの敷物や伝統が息づく織物をご紹介します。 〈佐々木知子プロデュース〉
9月10日(火)～9月23日(月・祝) 吉田もも 「花」	花のいのちは短い でもその時々を精一杯生きている…ありのままに 私もたくさんの自分の花を咲かせ続けたい
9月25日(水)～10月6日(日) しもゆきこ木版画展 「をかしなはがきがきた」 (宮沢賢治著「どんぐりと山猫」より)	この秋は、「をかしなはがき」に招かれて山猫の裁判にでかけて行く 一郎さんの後について行ってみようと思っています。
10月8日(火)～10月20日(日) 赤穂恵美子 染展 -光の刻-	時空を超え、生きとし生けるもの(万物)の全てをのみ込み、無限に変容する 光と水(海)の交叉(色彩と形象と音の響き)全てを包み込んだ宇宙空間を一時一刻 を捉えたく、古来より育まれた白生地(絹・麻)をキャンパスに`染める、という 表現手段(型染、ろう染、絞り染、手描き)で作品を作ってきました。
10月22日(火)～11月4日(月・祝) 伊藤博敏 「無垢の刻」	悠久の時間に育まれた石たちは様々な物語を持っています。 内に潜めた記憶を紐解き、寡黙な石たちが口を開き始めました。 愛想笑いの苦手な堅物たちの語りに耳を貸してください。
11月6日(水)～11月17日(日) スワラジ工房 旅するちくちく衣服 「旅する衣服展」	2004年からガンジーの道場で糸紡ぎを学び、天然素材をコンセプトに 諸国を旅して出会った布を合わせた作品を並べます。 ちくちくワークショップなどもしながら素材に触れることで 内なる想像力を活かせる展示になればと思います。
11月19日(火)～12月1日(日) 安田裕康 焼締陶展	薪窯は偶然が重なり焼け上がるものではない。全てが必然の世界。 作品を窯にどのように詰めるか、煙の濃度、炎の質、湿度の高低、天候、 各局面での焚き手の判断、これら全てが絡み合い焼けが決まる。 窯内部の気配を察し薪をくべる十四昼夜に渡る物語を覗きただけると幸いです。
12月3日(火)～12月25日(水)	しめしめ展
12月26日(木)	♫ Live
12月27日(金)～1月3日(金)	冬季休業

10:30 open ~ 20:00 close / 満月の日 ~ 21:00 close 月曜定休日(祝祭日は翌日振替)